

学生服のお手入れ方法

～学生服を長持ちさせるコツ～



学生生活を楽しく過ごすためにも毎日身につける学生服はキレイにしておきたいですね。

日頃ちょっとしたお手入れをするだけで、洋服の状態を良く保つことができます。

毎日のお手入れ

1 脱いだ制服は、すぐハンガーへ！

シワや型崩れを防ぐために、制服を脱いたらハンガーへかけましょう。

風通しの良いところに吊るしておけば、生地に含まれた湿気がとれます。



ポケットの中に重たい物をいれたままにしておくと、型崩れの原因となります。

ポケットの中はカラにするのがベストです。

また、ハンガーは服に合わせて厚みのあるものを選びましょう。

2 ブラッシングでホコリを払う

1 日着た制服には土やチョークなど、様々なホコリが付いています。
ブラッシングは洋服の寿命を延ばします。生地目に沿って上から下へ
一方向にブラシを動かし、ホコリを払いましょう。



制服が雨で濡れてしまったら、タオル等で表面の水気を取り、ハンガーにかけて
風通しの良いところに干してください。濡れたままにしておくと、シミやカビの
原因となります。

3 ボタンのほつれ・ほころび等、見つけたらすぐに縫いましょう！

ボタンがとれかかっていたり、縫い目がほつれていないかなど、
毎日のブラッシングの時にチェックする習慣をつけましょう。
すぐに縫えば、ボタンの紛失やほつれ破れが大きくなるのを防ぐことができます。



スラックスの裾の折り山部分に擦り切れを見つけたら・・
丈が長く、着用時に床や地面に擦ってしまっているのかもしれない。
正しいウエスト位置(へそ下)で着用し、丈の長さをチェックしてみてください。

洗濯のしかた

1 まずは、取り扱い絵表示をチェック！

制服の多くはウール素材を使用しています。ウールはデリケートな素材です。制服の内側に取り付けられている「取り扱い表示」をチェックし、表示の方法でお洗濯をしましょう。



取り扱い絵表示の一例



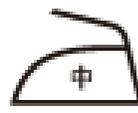
ドライクリーニングできる。溶剤はパークロロエチレンまたは石油系のものを使用する。



液温は30°Cを限度とし、弱い手洗いがよい。洗剤は中性洗剤を使用すること。



水洗いはできない。



アイロンがけは中程度の温度(140~160°C)でかける。



アイロンがけは高い温度(180~210°C)で、当て布をしてかける。



手絞りの場合は弱く。遠心脱水機の場合は、短時間で絞ること。



日陰で吊り干しにする。



日陰で平干しにする。

2 ドライクリーニングとは

ドライクリーニングは溶剤で汚れを落とすため、水では落ちにくい皮脂や化粧品などの「油溶性の汚れ」を落とすのに効果的です。



ドライクリーニングでは、汗などの「水溶性の汚れ」、泥・チョークなどの「不溶性の汚れ」を十分に落とすことができません。この場合は、ウエットクリーニング(水洗いクリーニング)がおすすめです。ウエットクリーニングについては、クリーニング店にお問い合わせください。

3 手洗いをする時のコツと注意点！

洗濯物同士がこすれて生地が痛むのを防ぐため、糸くず等が付着するのを防ぐために、制服は単独で洗いましょう。事前にホコリを払い、ボタンやファスナーを閉めて形を整えます。水温30℃ぐらいまでのぬるま湯の中で、振り洗いまたは押し洗いをしてください。洗剤は中性洗剤を使用します。よくすすいだ後、脱水の際も絞らず押し洗いの要領でゆっくり水を押し出してください。



お洗濯の際、もみ洗いや生地同士をこすり合わせる洗い方は、縮みの原因となる場合があります。また、脱水の際に生地を捻って脱水すると生地が痛みやすく、シワがつきやすくなってしまいます。校章やバッジなどをつけたまま洗濯すると、生地に傷がついたり部品自体が壊れたりする場合があります。取り外しできるものは外してから洗いましょう。

4 制服の正しい干し方

洗濯・脱水後はすぐにシワを伸ばし、ハンガーにかけ形を整えてから、風通しの良い日陰に干してください。直射日光は、色あせや黄ばみの原因となりますので避けましょう。ニット製品は伸びや型崩れを防ぐために、必ず平干しにしましょう。



ズボン・スカートは、内側のポケット部分が乾きにくいので、裏返しに吊り干しすると均等に乾きやすくなります。
風通しの良い日陰がない場合は、直射日光が当たらないようにバスタオル等で覆うのも方法のひとつです。

5 アイロンのかけ方

必ず当て布を当て、スチームアイロンをかけます。

スチームアイロンが無い場合は、当て布を濡らし固く絞った状態で当てアイロンをかけてください。当て布はハンカチや日本手ぬぐいなど、ケバ立ちの少ないものが適しています。



アイロンの温度が制服の取り扱い絵表示に合っているか必ず確認してください。



低い温度
80~120℃



中程度の温度
140~160℃



高い温度
180~210℃

困った時の対処方

1 制服のテカリ

制服のテカりは、摩擦の繰り返しなどにより布表面の繊維の羽毛が寝た状態になり、この部分に光が反射することで出ます。

テカリを取るためには寝てしまった羽毛を起こすことが必要です。

【手順】

テカリ部分の布目と逆方向にブラッシングして、寝た羽毛を起こす



テカリ部分に当て布もしくは濡れタオルを当て、スチームアイロンをかける。
アイロンは少し浮かせてかけてください。

※テカリ部分の繊維が劣化してしまっている場合、回復は困難です。

2 シミがついてしまったら

シミ汚れは時間がたつほど、取れにくくなります。できるだけ早く対処しましょう。

【手順】

シミの付いた部分にタオルやハンカチを当てる



シミが付いた布の反対側（裏側）からブラシや綿棒に液体を付けてたたき、シミをタオルやハンカチに移し出す。

※水溶性のシミには「水」を、油溶性のシミには「ベンジン」を使用してください。



シミ抜き後は洗濯表示に沿って洗濯をしてください。

※それでもシミが取れないときや、広範囲に汚れが付いているときはクリーニング専門店へご相談ください。

3 シャツ・ブラウスを黄ばませないコツ

黄ばみの主な原因は、皮脂などの油汚れがたまり、酸化されて変色するためです。

シャツ・ブラウスを黄ばませないコツは、汚れたらできるだけ早く洗濯し、しっかりと汚れを落とすことです。

特に黄ばみやすい衿や袖口、脇などは洗濯機に入れる前に部分洗いや、つけ置き洗いをすると、より効果的です。

保管のしかた

1 長期保管前は必ず洗濯！

着用シーズンが終わったとき、もしくは保管前に必ず洗濯しましょう。
汚れが残っていると、シミや黄ばみの原因になります。



◆ご自宅洗濯の場合

洗濯後アイロンをかけ、しっかり乾燥させましょう。

◆クリーニング店へ出した場合

クリーニングから帰ってくる洋服は、シワを伸ばすための蒸気を多く含んでいたり、使用した溶剤が残っていたりする場合があります。

クリーニングから戻ったままにしておくと、カビやシミの原因になります。

クリーニング店でかけてくれるビニールカバーは一時的なほこりよけです

必ずビニールから出し、風通しの良い日陰で十分に乾燥させましょう。

2 制服はハンガーにかけてカバーを！

型崩れを防ぐため保管の際は、必ず厚みのあるハンガーにかけましょう。また、ほこりよけのためにカバーをかけておきましょう。カバーは不織布のような通気性のあるものがオススメです。

保管場所は、湿気が少なく直射日光の当たらないところが最適です。

必要に応じて防虫剤を使うとより安心です。ただし、違う種類の防虫剤を併用しないでください。シミや変色の原因となる場合があります。



クリーニングに出した場合ハンガーがついて帰ってきますが、これは運搬用・店頭での一時的な保管用のものです。長期間このハンガーにかけたままにしておくと型崩れの原因になります。必ず厚みのあるハンガーに取り替えましょう。

3 ニット製品の保管

ニット製品は、長時間ハンガーにかけておくと伸びや型崩れの原因になりますので、たたんで収納しましょう。

湿気、汚れは虫食いやカビの原因になります。保管前に洗濯し、しっかり乾燥させてください。

クリーニング店にだした場合はビニールから出して保管しましょう。

防虫剤や乾燥剤を使用すると、より効果的です。